

「民俗芸能伝承の構造」

研究年度・期間：平成 8 年度

研究代表者：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

研究ディレクター：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

共同研究者：谷村 晃

(音楽教育学科 教授)

月溪 恒子

(音楽学科 教授)

西岡 陽子

(文芸学科 助教授)

志村 哲

(音楽学科 講師)

研究助言者：中川 真

(京都芸大 音楽学科 助教授)

松尾 容孝

(鳥取大 農学部 助教授)

志村 哲男

(音楽学科 非常勤講師)

研究経過の概要

- [現地調査]
- | | |
|------------|---|
| 8. 30 - 31 | 三原郡南淡町阿万風流踊調査 (馬淵、東谷) |
| 9. 7 - 8 | 南淡町阿万踊講調査 (馬淵、鶴見) |
| 9. 14 - 15 | 南淡阿万亀岡八幡宮秋季大祭調査 (馬淵、水落) |
| 9. 14 | 美方郡浜坂町久谷八幡秋祭 (鶴見、小松) |
| 10. 6 | 氷上郡氷上町谷村新発意踊調査 (馬淵、鶴見) |
| 10. 9 - 10 | 青垣町ざんざか踊について岡本丈夫氏 (在柏原) 及び氷上町伊
尼イチノミヤ神社秋祭調査 (馬淵、松尾、小原、矢部、鶴見、
水落、沢田) |
| 11. 23 | 三田市駒宇佐八幡秋祭 (百石踊) 調査 (鶴見) |
- [資料整理] 太鼓踊関係の採譜資料の P C 入力 (Overture)、歌詞データ入力など
- [総括] 報告書公刊 (アカデミア・ミュージックと交渉中) の為の打ち合わせは、特に会合することはせず、随時 FAX、電話等で行った。聞き取り結果等はデータベースとして ZIP 乃至は CD-ROM の形で公刊することで合意。Dr. Martí i Pérez (ISCS / Barcelona) 寄稿分は入稿済み。

研究成果について

民俗芸能の伝承状況は土地毎に異なるが、伝承を継続させる力は地域の精神構造である。或は過疎で弱年人口が減少し、地域コミュニティの存続に危機感を持つ地域もあれば、農村が新興住宅地を含み込み、その意味で外来人口の増加が土着民に本来の地域コミュニティの変質を危惧させる地域もある。もちろん民俗慣習の維持に必要な古典的条件即ち交通不便の僻陬の地もある。民俗伝承を積極的に維持して行こうとする地域はすべて、道路及びクルマ事情こそ都

会以上だが、明らかに共通するのは、都市の消費文化から縁遠く、かつ新幹線計画から完全に見放されているということである。いわばこの都市から、現代性から疎外されているというこの意識こそが、「古来の慣習」と意識するものの喪失をそのまま地域コミュニティの喪失と等置させているものである。この共同体が危機にあるという意識が現象的化したものこそ、地域住民全体を含み込んだ身体パフォーマンスであった。しかし、意識が伝統を支えるという構造は、伝承芸能を常に時代の変化に対応させ変化展開させてゆくものである。即ち、伝承とはその個々具体的な内容に関わるのではなく、身体パフォーマンスを主体とする地域イベントの持続ということであった。(本年秋を目途に久谷を始めとする兵庫県下の太鼓踊の報告書を公刊すべく準備中であるが、其の一章としてこの伝承の構造を論じる。)

研究の反省

今回の研究計画実施上最も困難を感じたのは、研究調査に参加しようとする意欲と好奇心を持つ院生に乏しいという事であった。